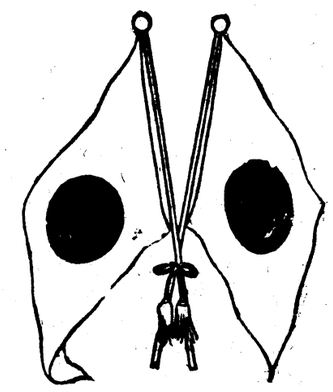
大日本帝國萬萬歲



時事新報

旅順口の占領

昨日の時事新報號外を以て報道したるが如く大山大將の率ゆる我第二軍は金州、大連灣の兩處を攻落したる後直に旅順口を目指して進軍し遂に本月廿一日を以て難なく同港を占領して旭日の國旗を其砲壘に樹立したりと云ふ抑も開戰以來我日本軍の向ふ所戰て勝たざるなく攻て取らざるなく陸に於ては平壤の一戰に支那の全軍を朝鮮の國境外に遥拂ひたるのみか尚ほ深く敵地に進入し九連鳳凰の二城を容易に攻落して勢威も既に我有と爲り今や破竹の勢を以て滿州地方に縱横して殆んど敵の遮る者なし海に於ては黄海の戰に我海軍は北洋艦隊の最良部分を粉微塵に撃破して再び敵ふの力なきに至らしめ茲に海上の全權を我手中に掌握するみとを得たり陸と云ひ海と云ひ我軍隊の功名は之を比するに例なく之を稱するに言葉なし我戰勝を悦ぶと同時に又其報伺が歐米の新聞紙に現はれ世界各國の人民をして日本は斯くまでに强力なるかと一驚を喫せしめたるを見て更に愉快に堪へざる其折柄今又旅順口占領の報を得たり我輩は早晩みの事ある可しとて世人と共に指を屈して其日を待兼たるみとなれども今日眼前に其確報に接しては今更のやうに思はれて滿腸の欣喜自から禁ずる能はず恍として唯夢の如きのみ傳〻聞く旅順口は支那第一の軍港なるのみならず東洋に於て之に比ず可き要害堅固の港は他にあるみとなく前年其築造を擔任したる外國の技師某は此港をば絶對的に攻破る可らざるものと爲すの目的を以て諸般の計畫を爲したりとて世界中の軍人社會に旅順の名を知らざるものなし其常一樣の軍港にあらざるを見るに足る可し斯る大切なる場所をば僅に一戰の下に敵に明け渡したる支那人の意志は果して何處に在るや普通人間の心を以ては殆んど想像するみと能はざる所なり旅順口にして既に日本の有と爲る以上は左なきだに進退窘の如くならざる支那の艦隊は益〻蹙す運動の自由を失ひ船體破損するも之を修繕するの場所なく軍器彈藥欠乏を告るも之を補ふの術なく唯目當もなく東洋の海面を徘徊して早晩日本艦の爲めに撃破せられ捕獲せらるゝか鉾らざれば風雨怒濤の難に遭ふて自から消滅するの外ある可らず其境遇誠に憐なりと云ふ可し艦隊に軍港の必要なるは恰も人間に家屋の必要なるが如し假令ひ如何なる有力の軍艦ありと雖も其根拠の軍港にして不完全なるときは更に戰鬪の用を爲さず之を海軍學の教ふる所なり昨年露來ダヲル國の海軍卿が其監督する所の軍艦を率ゐて露國に歸反したるとき政府の方には殆んど一隻の戰艦と稱す可きものなく辛うじて他國より水雷の古艦なども買入れ來りて防禦の用に供したる程の次第なりしが幸にして國中の要港は堅く政府の手に殘りたるを以て反徒の艦隊は其實力張大にして政府の海軍を壓倒す可きにも拘はらず戰爭の進むに從て次第に物品の供給に遑なく艦體の修繕に方便を缺き恰も家を離れて路頭に迷ふ人の如く進退維谷まりて遂に和を請ふに至り戰爭は政府の全勝と爲りて終を告げたり軍港の海軍の爲めに如何に大切なるかは此一例を見ても明なる可し今や我軍は既に北洋艦隊の根據地として頼切つたる旅順口を占領して支那帝國の命門を押へたれば今回の戰爭は茲に一段落を告げたりと云ふも可なり是より進んで北京を衝くも奉天に乘込むも我心の儘にして支那皇帝をして我軍門に降を請はしむるも難し近き十一月廿二十三日の紙上朝鮮の弊事を題したる社說中郡主口郡守の誤植また夏侯は鎮將（長官）にして鎮長戸は萬戸侯の誤植二十四日の紙上同社說中倉稅は庁稅の誤植、朝鮮にては倉稅は米穀を田に納す煙茂は竹茂の誤植にて我國の煙草なり及布（木綿）は布の上に草の字を脱す

大日本海陸軍萬萬歲

雜報

○乘艦記事（第二十）

十一月十三日軍艦橋立にて　宮本芳之助

大連灣内の各砲臺悉く我手に歸し旅順港占領の期も亦將に近きにあらんとす其勢ひ恰も竹を破る如くなれども其實は亦容易ならざるものあり予輩が茲に特報して内地諸君の注意を仰がんと欲するものは水雷敷設の擬是なり若しも輙爾に進みなば由々しき大事を出だしたるやも知るべからず

探海　去る六日我艦隊の同灣に進航せし以來旗艦橋立の水雷長横尾大尉が蒸汽船數隻を率ひて探海に從事し聖七日吉野の小蒸汽船に乘り船員と共に死を決して尚嶋の水雷營所にまで進み敵と思ひし砲臺の兵は圖らずも我陸軍にして遂に水雷敷設に關する地圖をも得歸りし趣は既に報道せしが尚其成績を聞くに八日は波荒くして探海を專にする能はず九、十の兩日水雷敷及び砲艦等を用ひて略其位置を探り當てたり

水雷の位置

白石洞近海灣口の東方には唯敷設の計畫のみにて未だ着手せず和尚嶋よりは三箇の衛所より電線を引きて視發水雷を敷設し一觸にして二十若くは三四十の水雷を有するあり和尚嶋の西砲臺下より老龍頭の間即ち灣口より橋橋に至るには是非とも通過せざるべからざる線路に二十一個の電氣觸發水雷を敷設し黄山の砲臺下よりも十六の水雷を敷設し灣口の西面即ち大鵬嘴より白石洞の方面に向て直線に灣内の中程まで視發水雷四十三個都合七十七個なり

種類　水雷には電氣觸發水雷、視發水雷、機械水雷、海底水雷、電氣機械水雷等の別あり則しく機械水雷にても亦幾多の種類ありなど千差萬別なれども此所には視發水雷と電氣觸發水雷のみなれども功用上より云へば兩用兼帶せるものなり即ち船體の抵觸に依て發するのみならず組を定めたる上發射器の作用に依りても爆發するものとす

試驗　右水雷の果して有功なるや否やを試驗せしに器具火藥等何れも精撰したるものにて

抵抗力　一オーム（强）　導通　良

との結果を得、中に一二の不完全なるものあるべしと雖も試驗したるものは各個とも完全して銳敏に爆發すべきものなるみとを發見したり

殘卒の水雷發射

和尚嶋の砲臺既に陷り黄山亦我手に歸したるにも拘はらず敵の殘卒は器械の銳利なるを頼みて大鵬嘴の方面にある水雷衛所に踏み止まり十日の正午過ぎまで狙を定めつゝありしが我軍艦の通過せるを認め四個まで發射したり然れども幸に敵の狙撃は美事に外れたり外れたるも其故あるなり同衛所に裝置せるは試發水雷にして和尚嶋の衛所と電信を通じ兩所の視線相合したる時に於て發射せざれば遠近の差を辨ずる能はざるものなるに而るに和尚嶋既に陷りたるを以て片眼を失ひたるも同樣距離を鑑定する能はず濫發せしめ一も其効を奏する能はざりしなり

鳥海の砲撃

斯くと知りて軍艦鳥海より直ちに同衛所を砲撃し陸戰隊を上陸せしめたるに殘卒は早や形を隱くして影だにもなし然れども敵の銳氣尚は斯の如きものあり若し我にして輕挙妄進するあらしめんか我軍艦をして敵の一發に誤らしめたるみとありしやも知るべからず今にして之を思へば冷汗の背に滴るを覺ふ

夫より我探海者は各水雷衛所の發射器を殘らず取外し尚通路に當れる觸發水雷をも片附けてイザと云はゞ再び何時にても使用し得べき樣なし置き昨十二日までに悉皆掃海を終りたり

○乘艦記事（第二十一）

十一月十四日軍艦松嶋にて　宮本芳之助

我軍既に大連灣の各砲臺を陷れて土地人民を占領すと雖も尚愚民の疑惧を抱き隱匿し居るもの尠からざれば遠征の意抄掠にわらずして問罪に在るみとを示し愚撫愛養せざるべからず

大連灣沿岸の告諭

一昨十二日旗艦橋立より將校一名譯官一名を大連灣沿岸に遣はし和尚嶋より上陸して老龍頭黄山近傍に於ける各村落に至り父老を集め譯官をして我軍意を抄掠する所なく適ま飲食物購求のため上陸するみとあるも相當の代價を取めて交易するの外奪取せざる旨を諭し且左の如き告諭文を掲示し其故をも委細說き聞せたり

大日本帝國海軍示

本艦隊在此、專倘敵艦來襲、事固屬國交、與爾等民衆無渉、但夜間船舶往來、殊屬危險、因此一到夜分、禁止各大小船舶出入、以一面益嚴防備、一面保護爾等民衆若有任意違者、本軍一經查出立行拏、究不稍貸寛、爲此特仰各色人等、一體知悉、毋違特示、

右諭通悉

明治二十七年十一月十二日

右は旗灣沿岸の村落にも同樣巡廻說諭の上、美濃紙四枚に大書して掲示せり

旗艦の移轉

十三日午後零時四十分聯合艦隊司令長官伊東海軍中將は幕僚と共に橋立より松嶋に移りて爾今松嶋を以て旗艦と爲せり予も亦同時に松嶋に轉じたり此際特に揚げて紹介すべきものは海軍々人に於ける生活の模樣なり

軍人の變情

血氣盛なるもの多人數一艦には相互の間に笑を起す丁一艦の中に生息しながら寄て反目相見るものなく車を共にして食ひ棚を同じ族の如し蓋し海軍々人は せざるべからざるの機に臨み予軍艦金剛より橋立に移り雷に遊迎の際のみならず相互の交情を觀るに感動聞く海洋嶋の海戰に戰死敢て他人の手を煩はすを揮ふて遺族も及ばざる愛の情以て見るべきなり

水雷の試驗

十二日午後三時三十七分魚形水雷を發射して其結進行して狙を誤らず若し なる旦艦なりとも撃沈せれたり

外國軍

十二日午後零時三十分閃を放つ我旗艦橋立之に答問せしむ然るに露國軍艦も亦往て訪問す次に露の我艦の各將校之を歓迎し に歓語したり司艦は四時せり今十四日午前九時發來航十一時十分に至り十七發の祝砲を發す我旗同艦長來艦し次で同艦の模樣を視る午後二時を訪問する等外國軍艦午後より各艦長來艦し來艦し軍議を凝したる

○生物貯存冷室庫

艦橋上三十五六度を昇る 領事官補清水精三郎氏 る關す件に付き在ウメン 其筋（報告ありしと云ふ

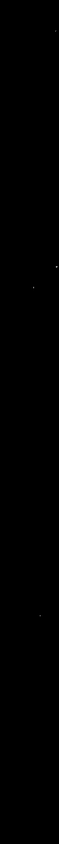
新鮮なる生肉

に運搬し若くはバタ くの方便は實に厚生上 に實施せらるゝに至る 或は春秋の風潮に食 其他肉類蔬菜菓物の保 事に進めらず

北米合衆國

汽船汽車等の内にて bomas）を嚮（以て生 頗る多く又諸大市には冷 から予管理の方法宜 りと云ふ

當英領哥倫比亞州

用のため冷室を備ふ 水を以て一種の營業 ール ダンズ メーア

とす昨年六月當州及